

高等学校における日本語指導と学習支援

—「特別の教育課程」の制度を活用して—

グローバル化が進む現在、日本の学校では外国人児童生徒等が増加し続けており、その教育の充実が急務となっています。令和5年度から、高等学校においても「特別の教育課程」を編成し、日本語指導を実施することが可能になりました。

この制度を通して、多様性と包摂性を理念とし、共生社会の一員である外国人生徒等の教育を学校・地域が連携して行うことが求められています。

東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構外国人児童生徒教育推進ユニット

「日本語指導」を、正規の教育課程に位置づける

「特別の教育課程」とは、学校が教育課程に創意工夫をする場合に、学習指導要領によらない編成を特例として認める制度です。その特例の一つが、日本語の能力に応じた特別の指導が必要な児童生徒に対する日本語指導です。在籍学級以外の場所で実施する日本語指導を、「特別の教育課程」として編成・実施することで、正規課程に位置づけることができます。義務教育では平成26年から、高等学校では令和5年から制度化されました。

対象は、「日本語指導が必要な児童生徒」、つまり「日本語で日常生活が十分にできない」及び「日常生活ができて、学年相当の学習言語能力が不足し、学習活動への取組に支障が生じている生徒」(文部科学省定義)です。国籍は問われません。

「特別の教育課程」としての日本語指導は、一人一人の日本語の能力等の実態を把握して個別の指導目標、指導内容、単位数等を決定し、「個別の指導計画」を作成して実施します。指導後は学習成果を評価し、記録します。作成に当たっては、日本語指導のみならず、教科学習、異文化適応、母語・母文化の保持伸長、多文化共生、キャリア形成(進路)をも含めた総合的な指導・支援を検討することが重要です。そして、卒業までの科目履修と学びの道筋を描きましょう。

その指導・支援には、学校内では、外国人生徒等教育を教育課題とする共通認識の形成と、組織的体制を整えるための仕組みづくりが重要です。また、地域との連携等により、生徒が共生社会の一員として、言語的文化的多様性を活かし、日本人生徒とともに社会活動に参加する機会を提供しましょう。

「特別の教育課程」による日本語指導の単位取得

一部に替える場合(授業時数は増加しない)

各学科に共通する 必修教科・科目	総合的な探究の 時間	選択教科 科目	日本語の能力 に応じた 特別の指導	特別活動
74単位			21単位まで	

教育課程に加える場合の例(授業時数の増加)

各学科に共通する 必修教科・科目	総合的な探究の 時間	選択教科・科目	日本語の能力 に応じた 特別の指導	特別活動
---------------------	---------------	---------	-------------------------	------

21単位を上限に、「日本語指導」を単位認定

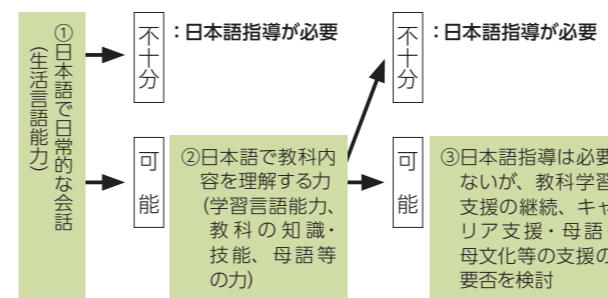
指導目標から見て満足できると認められる場合は、単位を認定し、教育課程の一部に替えたり(代替)、加えたり(増単)することができます。修得した単位は、21単位を超えない範囲で、卒業までに履修させる74単位に含まれます(上図参照)。

ただし、教育課程の編成上、必修教科・科目、総合的な探究の時間、特別活動は、「特別の教育課程」の日本語指導で代替することはできません。普通科以外の場合には他にも代替できない科目がありますので留意してください(詳細は本制度に関する文部科学省の通知等で確認してください)。また、「特別の教育課程」として障害に応じた特別の指導も受けている生徒は、日本語指導と合わせて21単位までになります。

日本語指導の必要性の判断

日本語の力のみならず、母語等の力、学力や思考力から日本語指導の必要性を判断します(左図)。第一に日本語の日常生活の力(生活言語能力)の習得状況から、第二に教科内容の理解や表現のための日本語の力(学習言語能力)から判断します。最後に、日本語指導の必要がない場合も、教科学習や進路支援、母語・母文化に関する継続的支援が必要なケースが多く見られます。卒業後の進路を見すえて、包括的に支援について検討してください。日本語指導が必要な生徒には、来日間もない生徒から日本生まれ日本育ちの生徒まであり、日本語の力も、学力や思考力、母語の力も、年齢相応の生徒から十分には発達していない生徒までと多様です。(生徒のタイプについては2~3頁、タイプ別の日本語指導内容については4頁のQ&Aをご覧ください。)

日本語指導・支援の要否判断の手続き



特別の教育課程による「日本語指導」+ その他の授業での支援

生徒の多様な実態に応じ、日本語指導の他、学校設定教科・科目や総合的な探究の時間等を利用して、外国人生徒等が学習参加できるよう工夫をしましょう。教科に関わる日本語やビジネス日本語を学ぶ学校設定教科・科目を設定して教科学習や進路選択のサポートをする、一般の教科・科目で「やさしい日本語」や母語により既存の知識やスキルを活かせるよう支援する、総合的な探究の時間に多文化共生をテーマに母語・母文化の知識やスキルを発揮して探究活動を行う等です。日本語指導を他の教育活動に関連づけることにより、外国人生徒等がエンパワーメントされるのみならず、日本人生徒との関係性に変容をもたらす、学校のダイバーシティが促進されます。

Q&A

Q1 1年次には必修科目が多く、「特別の教育課程」の日本語指導の配置が難しいです。どうしたらいいですか。

単位を加えるという考え方で、放課後の時間帯や夏休み等の長期休暇を利用して、日本語指導の時間を確保し、「特別の教育課程」として実施することが可能です。また、年度を跨いでも所定の時間の指導が行われれば、単位を認めることができます。(2~3頁の事例も参考にしてください。)

Q2 学校内に日本語指導の専門性を有する教員がいない場合、個別の指導計画は誰が立てればいいですか。

校内の日本語指導コーディネータ・外国人生徒担当の教員と教育委員会派遣の日本語指導員や多文化共生コーディネータでチームを編成して、検討・作成してください。また、必要に応じて日本語教育の専門家に相談をし、『ガイドライン』で提案されている「個別の指導計画」例等を参考にしましょう。

Q3 日本語指導の内容・方法について、どのように計画を立てればよいですか。

生徒の実態と卒業後の進路を見通し、3年後(定時制の場合は4年)の目標を設定して計画を立ててください(翠風高校、海岬高校を参照)。日本語プログラムの組み合わせ案を図に示します。

Aタイプ(来日直後)の生徒には、まずは、健康・衛生、友人関係、情報、学校・社会生活を円滑に送るための日本語の語彙・表現を場面毎に学ぶ「生活日本語」と日本語の発音・文字・語彙・文法等を段階的に学ぶ「日本語基礎」を中心に内容を構成します。基礎的内容の学習が一定程度進んだら、徐々に、技能別・プロジェクト型のプログラムも導入します。一方、Bタイプ(滞日期間3年未満)の生徒には、問題解決のための日本語の力を高められるように、聞く・話す、読む、書く技能を強化する「技能別日本語」、開発・制作・提案・探究などの課題への取り組みを通して日本語の力を高める「日本語プロジェクト」を中心に構成します。生徒の実態に応じて、日本語基礎の学習も継続的に行ってください。タイプC(滞在の長い生徒)のプログラムの組み合わせ案と、それぞれのプログラムの具体的な言語・学習項目(シラバス)、指導事例は、『ガイドライン』をご参照ください。

タイプ別 日本語指導の内容構成(プログラムの組み合わせ)

生徒	プログラム	1年	2年	3年	4年
タイプA	「生活のための日本語」	→			
	「日本語基礎」	→	→	→	→
	「技能別日本語」		→	→	→
	「日本語プロジェクト」			→	→
タイプB	「生活のための日本語」				
	「日本語基礎」	→	→	→	→
	「技能別日本語」		→	→	→
	「日本語プロジェクト」			→	→

Q4 日本語指導の学習成果をどう評価すればよいでしょうか。標準化されたテスト等を使った方がよいですか。

評価をつける必要はありませんが、評価は、指導計画で設定した目標に照らして必ず行ってください。例えば、評価の3観点で総合的に評価して文章で表すなどし、生徒・保護者に伝えてください。また、語彙・文法の知識の獲得を目標とした指導の成果であれば、標準化されたテスト(例えばJLPT)で達成度を把握できる場合もあります。なお、修得単位数は、必ず指導要録に記載してください。

Q5 「特別の教育課程」の制度は日本語指導のためのもので、進路指導やキャリア支援等は含まれないのですか。

生徒にとって日本語学習は教科学習への参加や卒業後の進路選択・キャリアに関わります。これらを含めて「個別の指導計画」を立て包括的に指導・支援を行うことが重要です。また、生徒が母語・母文化を活かす機会や、学校が文化的多様性に関くために多文化共生教育についても組織的に取り組むことが求められます。外国人生徒等の教育を通じて学校の多様性・包摂性を実現しましょう。

Q6 学校設定教科・科目として日本語関係の授業を開講しています。「特別の教育課程」としての日本語指導を導入することで、何が変わりますか。

一般の高等学校の普通科の場合、学校設定教科科目は上限が20単位までです。例えば、学校設定科目として他の科目を16単位開設すれば、日本語関連科目はその残りの4単位分しか置けません。日本語指導のニーズの高い生徒の場合は不十分になる場合があります。そこで、例えば普通科、定時制の梨深高等学校(仮名)は、教科の学び直しの科目を学校設定科目として置き、それとは別に「特別の教育課程」の日本語指導を21単位分開設しています。多様な背景・状況にある生徒が自分の将来設計に合わせて、教科科目と日本語科目を柔軟に履修できる教育課程と履修の仕組みをとっています。

「特別の教育課程」による日本語指導の詳細については、令和3~4年度文部科学省事業「高等学校における日本語指導体制整備事業」(東京学芸大学受託)の成果物をご参照ください。本ユニットウェブサイトでご覧・ダウンロードが可能です。

- 『高等学校における外国人生徒等の受入の手引』
 - 『高等学校の日本語指導・学習支援のためのガイドライン』
- 本ユニットWeb: <https://kodomonihongo.u-gakugei.ac.jp/>

発行: 国立大学法人 東京学芸大学
先端教育人材育成推進機構 外国人児童生徒教育推進ユニット
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

発行日: 2024年3月31日

高等学校における外国人生徒等教育の課題

- 1) 外国人生徒等の学習の機会の保障
- 2) 計画的組織的な指導・支援による日本語指導の質的改善
- 3) 外国人生徒等の修了後の社会参画・キャリア支援の充実
- 4) 多文化共生の実現に向けた市民性の育成への取組
- 5) 担当者の専門性の向上と地域における支援ネットワークの形成

日本語指導が必要な生徒は、大きく3タイプに分けられます。来日間もなく日本語の入門期にある生徒(タイプA)、滞日期間が短くまだ学習言語能力を獲得できていない生徒(タイプB)、滞日期間は長い、母語、学力、思考力ともに十分に発達していない生徒(タイプC)です。その実態に応じて、潜在的に有する力や経験的に育んだ力を発揮しながら日本語を学べるよう、日本語指導の内容と方法を決定します(Q3を参照のこと)

	滞日 期間	生活 言語能力	学習 言語能力	母語等の 言語の力	学力・ 思考力	日本語指導・教科学習等の支援
A	短い	なし	なし	学年相当	学年相当	生活適応のための日本語指導から開始
B	3年 程度	対応可能	不十分	学年相当	学年相当	日本語の基礎的内容の補充と教科学習・自己実現のための日本語指導
		十分	不十分	停滞	遅滞気味	教科学習・自己実現のための日本語指導
C	長い	十分	不十分	未発達	遅滞	教科学習・自己実現のための日本語指導

生徒の声 私たちは「日本語がわからず、何もできない人」と思われることがある。でも、私の作文を読んだ人が「心を動かされた。教員になりたい人を知ってほしい」というのを聞いて、自分たちにしかできないことがあると気づいた。私たちの思いを、日本の若い人たちに伝えたい。

生徒の声 中学校では日本語教室で必死に勉強をしていたのに、クラスメイトが、「勉強しないし、楽しんでいむ」と言うのを聞いて辛かった。高校では自分のペースでがんばれる。和菓子屋さんのアルバイトで、習った敬語を使って接客できるようにもなり、少しずつ自信が持てるようになった。

ある定時制1年生の時間割

	月	火	水	木	金
1			日本語I B	日本語I A	
2	日本語I A		日本語I B		
3	現代の国語	現代の国語	英語コミュニケーションI	歴史総合	歴史総合
4	数学の日本語	数学I	日本語I J	英語コミュニケーションI	歴史の日本語
5	英語コミュニケーションI	体育	数学I	保健体育	日本語I J
6		LT	総合	体育	数学I
7		日本語タイム	日本語タイム		

(緑=「特別の教育課程」による日本語指導)

翠風高校(仮名) 体系的・総合的な日本語指導・組織的取り組み

全日制・昼間定時併設の普通科の高校で外国人生徒の特別入試枠を有する高等学校です。定時制には、日本語類型という日本語を学ぶことを軸としたコースがあります。多様性、包括性、国際性、持続可能性をコンセプトとし、日本人生徒も含め、多様な背景を持つ生徒のための仕組みを整えています。令和5年度現在、一般入試で入学した生徒等も含めて外国人生徒は67人で(全生徒の約23%)、そのうち日本語指導を受けているのは29人です。ポルトガル語、タガログ語、スペイン語、ベンガル語等を背景にもち、日本語のレベルは初級から中上級までと多様です。

全日制では「特別の教育課程」による日本語指導を7単位、定時制では6単位修得できます。定時制生徒は、全日制的日本語科目も履修できます。また、全日制には、教科の取り出し授業、学び直しの教科科目もあります。選択科目として「生活ポルトガル語」「生活スペイン語」「生活タガログ語」も開講されており、日本人生徒も履修できます。

日本語指導には、学校生活に必要な日本語を学ぶ「日本語I J」、課題解決型学習の「日本語I B」、日本語能力試験の学習等をする「日本語タイム」、また「(教科)の日本語」があります。「日本語I B」では、SDGsをテーマに関連ニュースの聴解・アクションプラン作成の活動を行っています。母語で調べて日本語でプレゼンテーションをするなどの工夫をし、日本語の力に加えて思考力・判断力をも養っています。

指導体制の中心は国際教育部(主任、日本語指導コーディネータ各1名、県派遣の支援員8名・母語支援員4名で構成)です。入学前の高校合格時には科目選択の資料を配布し、合格者説明会で質問・相談を受けています。入学後は、個人面談をして実態を把握し、コーディネータ・学級担任・教科担当教員が協力して「個別の指導計画」を作成しています。校内ネットフォルダで共有・管理し、定期的に学習成果を評価・記入しています。翠風高校には管理職のリーダーシップ、組織的体制、個の違いと良さを認め合い国際性を含む土壌が形成されており、より良い学習環境づくりと文化的多様性に開かれた学校を目指して取り組んでいます。

教科の取り出し授業と日本語指導(特別の教育課程)

全日制		定時制
取り出し授業	特別の教育課程	特別の教育課程
現代の国語、言語文化 地理総合、歴史総合 数学I(3)、化学基礎 科学と人間生活 英語コミュニケーションI(3)	日本語I A 日本語I B 英語の日本語(1) 数学の日本語(1) 日本語タイム(1)	日本語I J 歴史の日本語(1) 数学の日本語(1) 日本語タイム
18単位	7単位	6単位

湊陵工業高等学校(仮名) 外国人生徒1人・学習機会を保障

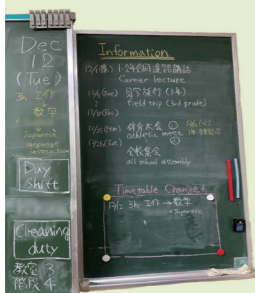
全日制、定時制併設の工業科、学年制の高等学校です。令和5年現在、定時制課程の1年にネパール出身の生徒が1名在籍しています。1名であっても受け入れる限りは学ぶ機会を保障するという考えを教員間で共有し、地域の日本語学校や近隣の大学と連携して、指導・支援体制を整えています。

1年次はほぼ履修科目であるため、「特別の教育課程」による日本語指導は週3時間です。専門科目の代替1時

間と授業開始前に増単としての2時間で、日本語の基礎的な学習をします。一部の教科の授業では大学生が入り込みで支援を行っています。また、HRでは、担任教員が英語を交えて日課の説明をします(板書も英訳付下の写真)。

授業や部活動でのこの生徒のひたむきな姿に、周囲の生徒は触発され、授業での積極性や英語への関心・意欲を見せ始めました。

Dec 12 (Tue.)
3h 工作 → 算数
※ Rai (生徒の名前)
↓
Japanese language instruction
Day shift
Ken (生徒名)
Cleaning duty
教室 3
課題 4



Information
1・2年合同進路講話
Career lecture
見学旅行(3年)
Field trip(3rd grade)
12/1 (Fri.)
12/5 (Tue.)
12/8 (Fri.)
12/25 (Mon.)
12/26 (Tue.)
体育大会① 12/2 (火)
Athletic meet 1年練習可
②
全校集会
All school assembly
Timetable Change !!
12/12 3h 工作 → 数学
Rai (生徒の名前) → Japanese

生徒の声 ブラジルルーツ生が先生になり、先生方にポルトガル語とブラジル文化を教える講座を企画した。アイデンティティを確認し、ブラジルについて知ってもらった貴重な機会になった。先生方が習ったポルトガル語で挨拶してくれることが、本当に嬉しかった。

海岬高等学校(仮名) 学校設定科目で日本語指導を充実・キャリア支援

普通科の学年制の全日制と定時制をもつ高等学校です。定時制は、令和5年度から外国人生徒等の特別定員枠入学選抜を始めました。日本語による学習のつまずきを取り除き、卒業後の進路を見ずえたキャリア形成を目指し、独自の教育課程を編成して受け入れています(右図)。1・2年生から日本語指導を充実させるため、必修科目の単位数を調整し、各学年に学校設定科目「日本語/実用日本語」(16単位、青枠)を置いています。

現在、日本語指導が必要な生徒は1~4年に16名在籍していますが、1年生10名がこの教育課程の対象です。5人2クラス編成で、日本語教育コーディネータの教員と日本語指導員で担当します。また、教科の取り出し授業(橙枠)と入り込み支援(緑枠)を、教科担当と日本

語指導担当教員が協力して行っています。取り出し授業は、3・4年への進級時に、本人・保護者と相談し、継続するかどうかを決定します。

その他、多文化コーディネータが派遣され(週2回)、教員と協働して、キャリア支援、翻訳・通訳による情報提供、多文化共生に関わる研修、教育相談等を行っています。

海岬高校は、「特別の教育課程」の制度を利用していませんが、外国人生徒等のための教育課程編成の工夫は大変参考になります。

日本語の目標	
日本語I・II: 日常で幅広く使われる日本語を理解できる(日本語能力試験(JLPT)・N3)	実用日本語II: 進路決定に必要な情報の読み取りや書類の作成ができる(JLPT・N2)

暉峰高等学校(仮名) 母語の力を発揮・市民性の育成

全日制的普通科、単位制の高等学校で、入試には外国人生徒の特別定員枠があります。令和5年には、フィリピンとブラジルを中心に外国人生徒が160名在籍しています(全体の約23%)。1年生33名を対象に、週2時間、学校設定教科・科目の日本語の授業を実施しています。国語科担当教員が近隣大学のサポーターとTT体制で指導します。また、必修科目の国語科・理科は習熟度別クラスで編成し、外国人生徒等には内容を厳選し、母語や視覚情報の利用等の工夫をしています。面談を行って個人カルテを作成し、教員間で共有して活かしています。

外国人の幼児の多い幼稚園・保育園でのインターンシップ活動では、外国人生徒が母語を活かして多言語会話帳(下)を作成しました。園の先生に喜ばれました。また、県に表彰されて、生徒は母語を活かして社会の一員として役に立てると自信をもちました。

Primeiro passo	mag linis toyo
16 片付けましょう	mag linis toyo
17 歯を磨きましょう	mag hugas toyo nang kamay
18 歯をみがきましょう	mag toothbrush toyo
19 トイレに行きましょう	punta toyo sa toilet



朝光高等学校(仮名) 地域・大学とのネットワーク・キャリア教育と社会参加

全日制的普通科、学年制の高等学校です。入試には外国人生徒の特別定員枠があります。現在(令和5年度)、フィリピン、ベトナム、タイ等出身の外国人生徒等が63人(全体の25%)在籍していますが、在住外国人が多い地域柄から、外国人生徒教育を学校の「使命」と考えて取り組んでいます。

1年生20名を対象に、「特別の教育課程」として「日本の言葉と文化」を編成し、日本語クラスの開設、キャリアワークショップの実施、生徒・生活支援等講話を実施しています(右表参照)。日本語クラスは放課後に週2時間、習熟度別に3クラス編成で行っています。初級前半、後半、日本語能力試験(JLPT)対策クラスがあります。日本語指導が単位化されたことで、日本語クラスの出席率が向上しました。教科学習の支援として、考査前に、集中講座の補習を実施しています(右表では、11日から17日までの集中講座)。

在日外国人の方と将来を考える活動や、お茶会等の文化交流も行っています。また、サマースクール(6日間程)で、地場産業の工房でフィールドワークを行うなど、地元密着型であることも特徴的です。

これらの活動を、日本語指導担当教員を中心とする体制をつくり、NPOや大学等と連携して運営しています。校内ではやさしい日本語や異文化理解の研修を行っています。NPO団体との連携では日本語クラスでの学習支援、面談時の通訳、保護者説明会の実施、大学からは「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」の実施/分析、日本語クラスでの大学生支援者、キャリアワークショップ運営の協力を得ています。

<令和5年度 月間スケジュール(5月の例)>

月	火	水	木	金
1日	2日	3日	4日	5日
初級後半クラス	体力テスト	ゴールデンウイーク		
8日	9日	10日	11日	12日
初級後半クラス	初級前半クラス	JLPT対策クラス	集中講座①②(1年対象:考査前補習)	
16日	17日	18日	19日	20日
集中講座③④(1年生対象:考査前補習)	中間考査			
22日	23日	24日	25日	26日
	初級前半クラス	JLPT対策クラス	クラスマッチ	
	DLA個人FD面談			
29日	30日	31日		
初級後半クラス 2年キャリアWS: 生徒指導主事講話	初級前半クラスA	キャリアWS 1年B・Cクラス		



定時制(一般)の教育課程

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1学年	現代の国語			公共			数学I		科学と人間生活		体育	保健	英語コミュニケーションI	情報I	総合					LHR
2学年	言語文化			歴史総合			数学I		生物基礎		体育	保健	英語コミュニケーションI	家庭基礎	総合					LHR
3学年	文学国語			地理総合			数学A		化学基礎		体育	選択	英語コミュニケーションII	芸術	総合					LHR
4学年	倫理国語			政治・経済			数学II		地学基礎		体育	英語コミュニケーションII	情報I探究	総合						LHR

外国人生徒特別定員枠入学生の教育課程

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1学年	日本語I			現代の国語			公共		科学と人間生活		体育	保健	英語コミュニケーションI	情報I	総合					LHR
2学年	日本語II			言語文化			歴史総合		数学I		体育	保健	英語コミュニケーションI	家庭基礎	総合					LHR
3学年	実用日本語I			地理総合			数学A		化学基礎		体育	選択	英語コミュニケーションII	家庭基礎	総合					LHR
4学年	実用日本語II			政治・経済			数学II		地学基礎		体育	英語コミュニケーションII	情報I探究	総合						LHR

一般の教育課程の赤枠の単位数を学校設定科目「日本語」科目(青枠)として開設。(橙:取出授業 緑:入込指導)